

ラウンド農ふくしま

Fukushima Agricultural Technology Centre

所長あいさつ

福島県農業総合センターの機能を発揮



所長 天野 亘

農業総合センターは、平成18年の開所以来、農業の生産性向上のための試験研究をはじめ、「天のつぶ」や「あづましずく」などのオリジナル品種の開発、農産物加工技術の開発、就農を目指す若者の教育・研修などに取り組んでいます。

特に、東日本大震災以降は、放射性物質の実態解明や除染技術、カリ肥料による放射性物質の吸収抑制技術の開発など、農業再生を技術面で推進してきました。

しかし、未だに農業生産が十分に回復せず、県産農産物への風評も残っており、安全な農産物の生産や安定した農業経営に向けた技術的アプローチは非常に重要であります。今後とも、農業総合センターの機能を十分に発揮して、本県農業の再生に取り組んでまいります。

農業総合センターニュース

農業短期大学校



農業短期大学校でJGAPを取得しました！

農業短期大学校では、米とトマトについて、国内における農業生産工程管理の安全認証「JGAP」を平成30年5月7日に取得しました。今後は、ブドウについても認証に向けた取組みを進めるとともに、GAPを含めた食の安全・安心についての講義や研修を行い、即戦力となる人材の育成を図ります。

作物園芸部、会津地域研究所、浜地域研究所

主要農作物(稲・麦・大豆)の優良種子安定供給に努めます

農業総合センターでは県内の種子場で使用する種子(原種)や原種を生産するための種子(原原種)等の生産や保管をしております。

平成29年度は水稻の場合、原種は本部(郡山市)、会津地域研究所(会津坂下町)、浜地域研究所(相馬市)で、約23t生産しています。生産では、異型の稲を抜き取るなど、優良種子生産に努めています。

主要農作物種子法は平成30年4月1日をもって廃止されましたが、今後も引き続き品質の高い種子を安定して供給できるよう努めてまいります。



図1 会津地域研究所での異型排除の様子

そばの安定生産と品質向上に向けた取組み

本県のそばは全国4位の作付面積ですが、収量は低い水準に留まっており、会津地域研究所では反収向上に向けて、会津地域の一部で行われている緑肥を取り入れた栽培方法を試験しています。そばは通常、粗放的な栽培が行われていますが、屑大豆等を活用した緑肥のすき込みにより、地力の維持向上のみならず、雑草対策としての効果も期待されます（図1）。

また、栽培条件と容積重やタンパク質含量の変化についての試験をしています。これは農産物検査規格の改正に伴い、容積重の最低限度が引き上げられたことから、容積重の向上による上位等級の確保に向けた適切な施肥量や播種期の検討、併せて、製麺適性とタンパク質含量との関係を明らかにするため、現地のデータとの比較検討も行いながら、そばの打ちやすさや麺の「つや」といった実需者が重視する粉質（タンパク質）を考慮した試験を進めています。

こうした緑肥栽培の提案や容積重の向上、実需者のニーズに即した粉質の向上技術等を通して、そばの産地化を支援します（図2）。



図1 屑大豆による緑肥試験の様子



図2 緑肥栽培をおこなったそば畑

問合せは 会津地域研究所 ☎0242-82-4411まで

ブロッコリー苗耐干性向上のための塩水かん水育苗を簡易な底面給水システムで省力化

ブロッコリーの苗に、定植1週間前から0.3%食塩水（以下、塩水）をかん水すると、苗の耐干性が高まります。これまでは塩水をジョウロ等により頭上かん水していましたが、下図に示したような簡易な底面給水システムを利用することで、かん水作業を省力化できます。

塩水をかん水するための底面給水システムの特徴は以下の通りです。

- (1) 育苗ベンチ上に直管パイプとビニールで簡易プールを作成し、プールに敷いた底面給水マット上に育苗トレイをおきます。
- (2) タンク内の塩水を、ON/OFFをタイマー（図1の円内）で制御した水中ポンプで、1日1回、10～15分、プールに送ります。
- (3) 底面給水マットを育苗ベンチ両サイドから15～20cm垂らして設置することで、プール内の塩水はゆっくりと排出されます。
- (4) 必要に応じてブローア（図1の中央）等でタンク内の塩水をかくはんします。

塩水を底面給水した苗の欠株率は、真水のみ底面給水した苗よりも明らかに少なく、塩水を頭上かん水した苗とは差がありませんでした。



図1 底面給水システムの様子

問合せは 浜地域研究所 ☎0244-35-2633まで

来春から水稻種子の消毒薬剤が変わります!!

本県の水稲種子場で使用される種子消毒剤は、ヘルシードTフロアブルが使用されてきました。ヘルシードTフロアブルは、イネばか苗病をはじめとする種子由来の病害に効果が高いのですが、近年本県で増加傾向にあるイネ苗立枯細菌病には登録がなく、これまでは、種子消毒とは別にカスガマイシン剤を散布する体系防除を推奨してきました（福島県農作物病害虫防除指針）。

しかし、生産者からは作業の省力化のため、種子消毒のみで防除できる代替薬剤の選定が強く望まれていました。

そこで、代替薬剤の選定と種子由来の主要病害に対する防除効果を検証し、新たな種子消毒剤としてモミガードC・DFが有効であることを確認しました。

※本剤は、平成31年用更新種子から消毒剤として使用される予定です。



図1 イネ苗立枯細菌病に対する各種薬剤の防除効果（播種後6日）
（浸種15℃6日間、催芽30℃24時間後播種し、人工気象室で日中25℃—夜間15℃（緑化：出芽処理後3日間被覆））
※モミガードC・DFとモミガードC水和剤は、同一成分の薬剤です

栽培管理における留意点

※本剤の使用により軽度の初期生育遅延を認めることがありますが、その後回復しますので、通常の管理を維持してください。

※細菌病の多発生が懸念される場合は、カスガマイシン剤との体系防除を実施してください。

問合せは 作物保護科 ☎024-958-1716まで



プランターを用いたキュウリの少量培地栽培

水稻育苗ハウス等の未利用期間を利用したキュウリの少量培地の養液栽培には、つる下ろし整枝法が適しています。この整枝法は夏季の高温時には収量が落ちるものの、6月～7月末までの短期の収穫期間で700kg/a程度の収量が得られます。

- つる下ろし栽培は、摘芯栽培に比べてより高い収量が得られ（データ略）、つる下ろし枝には主枝よりも側枝を利用することで、つる下ろし回数を抑えた栽培ができます（図1）。
- 栽培槽であるプランター（長さ100×幅30×高さ17cm）にパーミキュライトとピートモスを等量混合した培地を株あたり15L充てんし、点滴チューブによるかん水同時施肥とします。資材の導入費用は297千円/aで、資材の使用可能年数を考慮した年あたりの費用は62千円/aです（表1）。

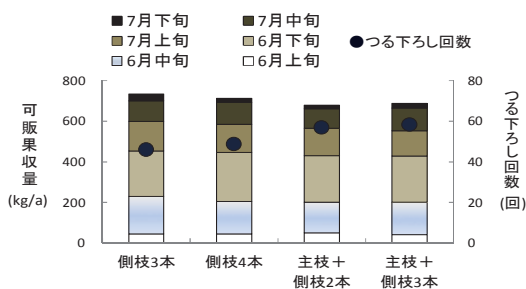


図1 つる下ろし栽培の仕立法の違いが可販果収量とつる下ろし回数に及ぼす影響（2017年）

表1 資材の導入費用の試算（1a114株あたり）^z

項目	導入費用 (円)	年あたりの費用 (円) ^y	資材詳細
栽培槽	103,674	14,922	栽培プランター「ゆめ果菜恵」、受け台、排水樋（7年）
培地	37,250	12,417	パーミキュライト、ピートモス（3年）
肥料	13,026	13,026	大塚養液土耕3号、苦土石灰、FTE（1年）
かん水装置	74,129	11,171	液肥混入機、タイマー、電磁弁、減圧弁、フィルター、配管資材等（7年）、点滴チューブ（3年）
誘引器具	30,318	4,410	誘引フック、誘引クリップ（7年）、誘引ひも（2年）
被覆資材	39,213	6,200	マルチ（3年）、遮光幕（7年）
合計	297,610	62,146	

^z 水稻育苗用パイプハウス1aは既設としての試算

^y 1年あたりの費用は、資材詳細の（ ）内に示した各資材の使用可能年数から算出した

問合せは 野菜科 ☎024-958-1724まで

トピックス

● 交流事業の紹介

田んぼの学校

郡山市立高倉小学校5年生が、米作りを通じて、農業や食の安全について理解を深めるため、「田んぼの学校」を年5回のプログラムで開催しています。福島県オリジナル品種「天のつぶ」の田植えや、田んぼの除草に取り組み、初めての田んぼ作業に戸惑いながらも、一生懸命取り組みました。秋には収穫体験や、品種の食べ比べを実施する予定です。



農的楽しみセミナー

県民の方々を対象に農業や植物等に関する知識や技術を学んでいただくために、農的楽しみセミナーを開催しています。6月に、ブルーベリーの栽培・加工を学ぶ農的楽しみセミナーを開催しました。参加者からは土作りや栽培のポイントなど、日ごろから疑問に感じていることを解決するよい機会になっ



たとの声が寄せられました。

秋以降は、秋冬野菜の作付計画、土作り、栽培法についてのセミナーを開催予定です。

● 農業総合センターまつりを開催します

研究成果の紹介や技術相談、子供も楽しめるイベントなどを行います。ぜひ、ご来場ください。

本部会場（郡山市日和田町）

- ・ 場所 農業総合センター
(郡山市日和田町高倉字下中道116)
- ・ 日時 9月7日(金) 9:30~16:00
9月8日(土) 9:30~15:00



果樹研究所会場（福島市飯坂町）

- ・ 場所 農業総合センター果樹研究所
(福島市飯坂町平野字檀の東1)
- ・ 日時 9月14日(金) 9:30~16:00



● 農業短期大学校（アグリカレッジ福島）平成31年度学生募集のお知らせ

本校は、実践的な農業の技術力と経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、下表のとおり学生を募集します。

募集人員	願書受付期間		試験日
農業経営部60名 (修業年限2年)	推薦入試	平成30年10月1日(月) ~10月5日(金)	平成30年11月2日(金)
水田経営学科15名程度 野菜経営学科15名程度 果樹経営学科10名程度 花き経営学科10名程度 畜産経営学科10名程度	一般入試	前期	平成30年11月12日(月) ~11月16日(金)
		後期	平成31年1月15日(火) ~2月1日(金)
			平成30年12月7日(金)
			平成31年2月15日(金)



詳細は、本校ホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37207a/>) をご覧になるか、農業経営部入試担当(電話0248-42-4113)までお問い合わせ下さい。

ラウンド農ふくしま 第37号

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/>
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp

- 編集・発行：福島県農業総合センター
- 〒963-0531
- 福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
- TEL 024-958-1700 FAX 024-958-1726



「植物インキ」を使用
して印刷しました



古紙配合率70%再生紙を
使用しています